

藤沢でハーブフェスティバルのイベント第3弾
ハーブを活用した健康法を学ぶ

6月24、25の両日開かれる「全国ハーブサミット in 一関」と「一関ハーブフェスティバル」のイベント第3弾「花と緑で健康セミナー」は4月1日、藤沢町黄海の館ヶ森アーク牧場で行われました。同日は、園芸療法実践家グロッセ・世津子氏の講演、ジャパンハーブソサエティー仙台支部長穴戸多恵子氏のワークショップのほか、ギャザリング教室が開かれました。ギャザリングは、プランツアレンジメントとも呼ばれる寄せ植え。栗原市で「花カフェ花音」を運営する講師の大場育さんは「北国でも1年中楽しめる。花や植物に触れることで、癒やし効果もある」とその魅力を伝えていました。



花と泉の公園で食べられる花を楽しむ
ハーブサミットのイベント第2弾を開催

「全国ハーブサミット in 一関 一関ハーブフェスティバル」のイベント第2弾「ハーブセミナー・試食会」は3月19日に花と泉の公園で行われました。同日は市内外から約70人が参加。講演と試食を通してハーブと食用花(エディブルフラワー)の活用方法を学びました。講演ではジャパンハーブソサエティー仙台支部長穴戸多恵子氏がハーブの薬効を生かした食事の楽しみ方を、日本エディブルフラワー協会の小松美枝子会長が食用花の活用方法を紹介しました。講演後は、ハーブや食用花を使った料理の試食会が行われ、参加者は色鮮やかでおいしい料理を目と舌で楽しみました。



毎年恒例、県内で一番早い山開き
霊峰室根山に登山シーズン到来

「室根山山開き」(室根山観光協会)は4月9日、室根山で行われ、約300人が県内で一番早い今年の登山を楽しみました。同日は蟻塚公園で開会セレモニーが行われ、室根山観光協会の小野寺規夫会長は「山頂付近はまだ雪が残っている。今日は雪を楽しみながら登ってほしい」とあいさつしました。関係者によるテープカットの後、登山愛好家や地元の愛護少年団らが一斉に登山を開始。途中の室根神社では、神主が祝詞を上げ、今年の登山の安全を祈願しました。室根東小5年の千葉樹里さんは「頂上からの眺めがとてもきれいです」と気仙沼湾を望む圧巻の風景に見とれていました。

川崎町での新たな生活にワクワク
緑のふるさと協力隊員に中芝浩美さん着任

NPO法人地球緑化センターの「第24期緑のふるさと協力隊員の委嘱状交付」は4月13日、市役所で行われ、岡山県真庭市出身の中芝浩美さん(24)が着任しました。4月から川崎町門崎地区で1年間、農作業や地域行事などさまざまな活動に取り組みます。中芝さんは「川崎地域に緑のふるさと協力隊員が派遣されるのは私が初めて。農作業だけでなく、イベントへの参加や餅つきなどさまざまなことに挑戦したい」と新生活に期待を寄せました。当市に緑のふるさと協力隊員が派遣されるのは、今年で7回目です。



思わず触りたくなるモニュメント
健康長寿を願い保健センターに設置

市は第2次健康いちのせき21計画の策定に合わせ、「健康長寿モニュメント」を保健センターに設置しました。3月28日に行われた除幕式には勝部修市長、市保健推進委員連絡協議会の千葉京子会長や一関あおば保育園園児ら約40人が出席。勝部市長は「健康長寿のまちづくりは地域づくり。市民に親しまれるモニュメントになってほしい」と市民の健康長寿を願いました。白御影石で作られたモニュメントは、家族や仲間が笑顔で支え合う姿をイメージしたもの。大きさは高さ60センチ、幅70センチ、奥行き50センチで、幼児でも触ることができます。



福島県三春町との末長い交流誓い
「三春滝桜」の子孫樹を釣山に植樹

市は福島県三春町との姉妹都市締結30周年を記念し、同町から寄贈された「三春滝桜」の子孫樹を3月19日、釣山公園内の田村神社脇に植樹しました。植樹式には鈴木義孝三春町長、勝部修市長や関係者ら15人が出席。「愛姫」と名付けられた高さ約10メートルの子孫樹を植樹しました。鈴木町長は「田村家ゆかりの場所に植樹してもらい光栄」、勝部市長は「桜は市の財産として育てていく」と述べ、互いに末永い交流を誓いました。植樹された愛姫は、4月中ごろに淡いピンク色の花を咲かせて釣山公園を彩りました。

地域と連携した防火パトロールなどが評価される
田中少年消防クラブに消防庁長官賞

大東町曾慶地区の児童でつくる「田中少年消防クラブ」は、総務省消防庁による2016年度優良少年消防クラブ・指導者表彰で「優良な少年消防クラブ」として消防庁長官賞を受賞しました。3月30日には同クラブ員の足利美海さん(大東中1)と菅原結奈(大東小5)、指導者で足利さんの父勝浩さんが市役所を訪れ、勝部修市長に受賞を報告。勝部市長は「今後も火災予防の普及と啓発を続けてほしい」と励ました。美海さんは「これからも積極的に参加して安全な地域にしたい」、菅原さんは「火は命を奪うこともある。新入生にクラブの活動について教えたい」と誓いを新たにしました。



若者の声を市、県、国へ
一関一高卒業生と在校生有志が署名活動

「ILC計画実現に向けての署名活動」は3月28日イオンスーパーセンターで行われ、一関一高卒業生と在校生の呼びかけに買い物客らが署名を行いました。同活動はこの春一関一高を卒業した浅利寛喜さん(18)の呼びかけによって実現。浅利さんの同級生5人と在校生6人が署名活動を行い、3時間で約470筆を集めました。浅利さんは「署名は県知事や文部科学大臣に渡したい。ILCを実現させてもっと一関を発展させたい」と目を輝かせました。今後は、市内外での街頭署名活動のほか、各学校への署名の呼びかけも行う予定です。